

# 卒論ガイドライン（仮）

加藤言人ゼミ  
2025@ 明治大学

加藤言人（KATO, GENTO）  
[gentok@meiji.ac.jp](mailto:gentok@meiji.ac.jp)

最終更新：2025 年 4 月 10 日（仮）

卒業論文では、統計的手法を用いた実証データ分析を含む仮説検証型の論文を書いてもらいます。どのような問い・仮説を立てるかは自由ですが、統計的な分析が可能なデータを 1 つ以上使用し、教員と個別に確認をとることが条件です。評価は、以下の 3 項目を通じて行い、総合で S-F のスケールで採点します。

1. プレゼンテーション：プロジェクトの進捗を 1 学期につき 2 回以上発表してもらいます。プレゼンテーション資料（スライドもしくはレジュメ）は、クラスに共有するので、発表前日の午後 1 時半までに **Discord の #presentations チャンネル** まで提出してください。進捗状況なので、プロジェクトの構成要素すべてを含む必要はありませんが、作業の更なる発展につながる質問を 2—3 個準備してください。
2. 中間ドラフト（春）：春学期末にはプレゼンテーションで受けたフィードバックも生かして、データの仮分析を含む中間ドラフトを書いてもらいます。このドラフトには、完全なイントロや詳細な文献レビューを含む必要はありませんが、少なくとも 1 つ以上の理論と仮説、および条件付き仮説について、データ分析を一通り行い、結果を解釈してください。Discord への提出期限を、**2025 年 7 月 27 日（日）の 23:59** とします。
3. ピアレビュー（夏・仮）：夏休みは先行研究を探索し、仮分析を行った中間ドラフトの理論的背景、貢献について肉付けをしていってください。中間ドラフトへのフィードバックを踏まえて、夏合宿時に参加できる人はピアレビューをしたいと思います。具体的には、ペアになってお互いの卒論ドラフトに、プレゼン形式でコメントし合うということです。ペアの相手の卒論が更に良くなるように、意味のあるコメントを考えましょう。詳細は追って調整します。
4. 最終版論文（冬）：プレゼンテーションで受けたフィードバックも生かして、研究レポートを書いてもらいます。指示された通りの構成になっているか、適切な分析・解釈が行えているか、また議論自体の面白さを総合的に見て評価します。Discord への提出期限は、**2026 年 1 月 25 日（日）の 23:59** とします。

注：プレゼンテーション資料、論文の提出期限については、シラバスにある通り、事前申告を条件に24時間ま

での遅延提出をペナルティなしで認めます。

## 卒論の構成

卒論の執筆は、次の構成に従って進めること。箇条書きはできるだけ避け、すべて文章で記述すること。各セクションのページ数は目安ですので、そのとおりにする必要はありません。フォントサイズは 11pt、行間は 1 行で想定しています。参考文献表を含め、全体で 20 ページ程度以上を想定しています（仮）。

まずは、分析内容と関連する意味のあるタイトルをレポートにつけること。「加藤言人ゼミ卒業論文」といったような一般的なタイトルは避ける。氏名及び学籍番号をタイトルの下に明記すること。

1. **イントロダクション（2+ ページ）**：グループで注目するパズルおよびリサーチ・クエスチョンを紹介すること。リサーチ・クエスチョンには、注目したい従属変数（Y）と独立変数（X）のどちらかもしくは双方を明確に含めること。なぜ、その問いに注目するのか？問いへの答えが明らかになると、私たちの政治・社会の理解にどのような意味・貢献があるのか？このセクションでは、外部の文献を必ずしも引用する必要は無いが、具体例を出して、読者の関心を引き付けること。
2. **文献レビュー（4+ ページ）**：このセクションでは、リサーチ・クエスチョンに関連する先行研究を紹介し、先行研究を踏まえて、なぜ混乱や誤解、間違い、解き明かされていない問題が存在するかを明らかにすること。このセクションでは、1 人のグループ・メンバーにつき 3 つ以上の外部文献を適切な形で引用すること（そのうち 2 つは、学術論文もしくは学術書の章である必要がある）。
3. **理論／仮説（仮説群 1 セットにつき 2+ ページ程度）**：リサーチ・クエスチョンに答える形で、従属変数（Y）と独立変数（X）を特定し、なぜ X が Y を引き起こすかに関する論理的説明を記述すること。セクションの最後では、X と Y を現実のデータで測定可能なものに書き換えて、仮説を 1 セット（メイン仮説と条件付け仮説）を提示する。一つの理論から、複数の仮説を引き出しても良い。仮説を提示する際には、**X と Y の双方を引き起こす可能性のある交絡変数（Z）**を各仮説につき 2 つ以上示すこと。
  - a. **メイン仮説**：X の値が大きく（小さく）になると、Y の値が大きく（小さく）なる。（例：政治関心が高まると政治に参加しやすくなる。）
  - b. **条件付け仮説**：メイン仮説で述べた関係は、条件付け変数（M）の値が △△ である人より、M の値が ○○ である人の間で、強く（弱く）なる。（例：政治関心が高まると政治参加しやすくなる関係は、年齢が低い人より、年齢が高い人の間で強くなる。）
  - c. **交絡変数（Z）**：交絡変数（Z）は、X と Y の双方を引き起こす可能性がある。（例：教育程度が高くなると、政治関心と政治参加の双方が高まる可能性がある。）

※ 最終版の卒業論文では上記の仮説群を 2 セット以上を提示するようにしてください（多い分にはそれで構いません）。
4. **データ／関連概念の測定方法（3+ ページ）**：使うデータセットの概要を説明する（調査年月、場所、回答回収方法、調査人数など）。そのデータセットを用いて、セクション 3 で提示されたそれぞれの仮説に登場する X, Y, M, Z はどのように測定できるか？各変数について具体的な質問文を示し、値の分布

に関する図または表も示すこと。また、回答選択肢の値を調整したり、複数の質問に対する回答を組み合わせた場合は、その手続きについても解説すること。

5. 分析（1つの仮説群につき 2+ ページ）：セクション3で提示したそれぞれの仮説を、セクション4で測定した指標と重回帰分析を用いて検証してください。1つの仮説につき、1つの図もしくは表を出力すること。出力された結果に表れている傾向を、文にして適切・正確に記述すること。
6. 結論（2+ ページ）：セクション5で得られた結果をもう1度、セクション3で提示した理論的説明と照らし合わせて、整合的かそれとも整合的でないか解釈してください。加えて、分析結果は、XとYの関係、及びその背後にあるメカニズムの理解に対して、どんな含意・貢献があるかを議論してください。さらに、分析で得られた結果に対して、先に提示した理論的説明とは異なるような解釈の仕方があるか、分析結果をただ受け入れるのではなく、批判的に議論してください。

## その他留意事項

プレゼンテーションについては、早い時期に発表をした人は遅い時期に発表をしたグループよりも、事前情報・資源が少ないと想定されるので、その部分は成績評価時に考慮・調整します。